VOICE Special Issue #40

【ヴォイス】/ #40 / MARCH 2012 / www.oisix.com

守屋守昭さん、中鉢隆広さん【宮城県】

東の食

VOICE【東の食】

お客さまの応援VOICE

東北の生産者へ応援メッセージを多くの方からいただきました。
一部ご紹介させていただきます。

寒さの中育った東北の野菜は、おいしさがギュっとつまっておいしいです。
これからも楽しみにお野菜待っています。

三陸の海の幸が蘇るのを待っています。

安心して食べられるものだけを届けていただいていると信じています。
これからもよろしくお願いします。

これからも応援しています！
きっといいこと、あります！
上を向けば、太陽が見守ってくれています！

もうすぐ春です。
新しい命が芽生える季節。
応援しています！

復興に全力を傾けているすべての生産者の方々にお礼を申し上げます。
私たちも購入・飲食することで一端を担いたいと思います。

食物のありがたみを改めて知る年になりました。

虹トマトを応援しています。
これからの、福島の発展が虹色でありますように。

私は福島のお米が大好きです。
これからも子どもたちが笑顔でいられるお米をたくさん作ってください。

東北の幸を応援しています。体に気をつけてゆっくり取り戻してください。
いっしょにがんばりましょう。

東北出身なので、おいしいものがたくさんあるのを知っています。自分でも食べていきたいし、他の人にもおすすめしていきたいです。
こちらが想像する以上にご苦労も多いかと思いますが、できるかぎり応援させていただきたいと思います。

東北、関東の生産者の方々にとっては大変な一年でしたが、今年も子どもたちに安心安全な農作物を作ってください。

Oisixの復興支援活動取り組み報告

Oisixは、東日本の食関連企業や生産者の復興・支援のために新しく設立された「東の食の会」を通じた支援を行っております。

これまでも「復興枝豆の販売」や「食の産業サミットの開催」などの活動を行ってきました。
今後もさらに多くの商品を販売し、積極的に活動してまいりますので、
どうぞご期待ください。

【「東の食の会」とは】

東日本の食をテーマに、復興側と支援側をつなぐプラットフォームの構築や両者のマッチング事業の展開、イベント開催、分科会活動、行政への提言などを活動内容とし、東日本の食品産業の復興と創造の支援を目的とした団体です。

東の食の会
Eat, and Energize the East.

URL http://www.higashi-no-shoku-no-kai.jp/

気持ちと気持ち、つながる。

Oisixでは震災直後から宮城県南三陸町に食糧支援をし続けてきました。
ちょっとしたお付き合いから始まった支援でしたが、3月で1年。
その間、お返しですと南三陸町で獲れたワカメやタコ、イカ、メカブなどを送っていただきました。

南三陸町ながしず荘の遠藤あえこさんは
「いただいたものに気持ちがいっぱいつまってました。食糧をいただいても、なんもやることができないと思ったけど、せめて海で獲れたものをごちそうしたくてネェ。」
と言って送ってくださったのです。

何かを求めてしたわけではないけれど、こうやって気持ちと気持ちがつながるとうれしいものです。これからも一緒に頑張っていきましょうね。

ながしず荘のみなさんとスタッフ

いただいた立派なワカメ

編集後記

震災から1年。今回のVOICEでは震災特別号として東北に取材に行ってきました。
同じ宮城県でも沿岸部で直接津波の大きな被害を受けた守屋さんと内陸部で風評被害に遭う中鉢さんでは取り巻く状況が全く違っていました。
ただ、どちらにも共通するのは、「おいしいものを作るということをやめない」「多くのお客さまに喜んでもらいたい」ということでした。
Oisixでは東の生産者がこれまで通りの販売をできるように取り扱いを続けています。中鉢さんのつぼみ菜も2月から販売し始めたばかり。希望を持って生産に励む人々の姿を伝えたい、そういう思いで今回ご紹介させていただきました。守屋さんの商品を販売できるまでにはもう少しかかるかもしれません。
でも、私たちは販売できる日を楽しみに待っています。

VOICEへのご意見・ご感想はこちら voice@oisix.co.jp　　バックナンバーはこちら http://www.oisix.com/voice

発行／オイシックス株式会社　取材・文／田美智子　写真／木村文吾

TSUBOMINA【つぼみ菜】

中鉢隆広さん【宮城県大崎市】

人と生きている

宮城県大崎市でつぼみ菜を育てる中鉢さん。

「震災直後は村で炊き出しをしたりして、農業再開するのに1ヶ月はかかったかな。本当はやろうと思えばすぐ始められたんだけど、まわりで困っている人がいるのに、自分だけ仕事始めるなんてできなかった。あと、自分の野菜を津波の被害を受けた地域にあげてたんだわ。風評被害で買ってもらえる量は減ったけど、農業は楽しいからさ、ずっとやっていきたいのよ。」

チャレンジし続ける

2月から販売を始めたばかりの中鉢さんの野菜。Ｏｉｓｉｘでは生産者の指名買いが多いと伝えると、

「そりゃ、おいっしいもの作んなきゃね！多くの人に食べてもらたい。次にチャレンジしたい野菜もいくつかあるよ。色々試行錯誤すればするほど成果がでるのがいい。俺がダメでも息子には日本一とは言わなくても、いいところまでいってほしいと思ってるんだ。」

春を感じる野菜

つぼみ菜は菜花の一種。

「普通の野菜だったらつぼみがついてたらダメなんだけどね、これはつぼみがついてもいいし、あちこち黄色くてもいいんだわ。おひたしとか胡麻和えにするとおいしいよ。」

抱える問題はあれども、春は必ずやってくる。安心しておいしく食べられる野菜を届ける、それが私たちの使命だと改めて感じた。

FISH【漬魚】

守屋守昭さん【宮城県気仙沼市】

あの日からかわった

表紙の写真。宮城県気仙沼市で魚の加工業をしている守屋さんが立つのは元工場の入り口部分。

「津波で何もかもなくなりました。何も残ってないからここに来ることもほとんどないんです。中途半端に残っている人のほうが何か残っているんじゃないかって探してしまうから大変ですよ。」

またみんなで働きたい

元の工場からは少し離れた場所で、3月1日新工場が稼動し始めた。1年ぶりに元の工場の仲間が再集結した。新しい機械に囲まれて、使い方を覚えるそのまなざしは真剣そのもの。まっさらな作業着がまぶしい。

「震災後、従業員にまた働きたいか聞いてみたら、95％もの職員が働きたいと言ってくれた。うれしかったです。でも全員はまだ雇えない。少しずつ頑張ってまたみんなでやりたいし、もっとお客さんが喜ぶようなものを開発したいんです。」

次の世代につなげる

守屋さんは自分の会社だけではなく、気仙沼の産業復興のプロジェクトにも参加しているが多くの課題を抱えている。「大変だけどそれでもチャレンジするのは今の自分のためではなく、孫の時代、その先のことを考えているからなんです。」

旧工場の前で笑う守屋さん。その笑顔の理由がわかった気がした。人は人のためにやさしく、そして強く生きる。